

③ 最大公約数の罫 I

『ならでは』は、キーワード！！

★ 前回出した課題について

誰もがすぐ考えつく、常識や、どこかで見た映画、ドラマ、小説などと同じことをやっていないか？

それが、『最大公約数の罫』。

パッと浮かんだネタ、アイデアを、疑うこと、止まって、Uターンすることが、書き手=作家への第一歩である。

セリフも、キャラクターも、ストーリー、構成も、同じ。

★ 宮下の苦い経験、失敗から

その人物ならではの優しさ、愛情、あるいは、憎しみ、怒りを描くこと。それを意識して書くこと。

その作者ならではの作品は、そうして生まれる。

『ならでは』は、以降何度も出て来る、本講義の肝、キーワード。

★ それをふまえて、改めて、『伏線と回収』の説明を――

参考作品は、山下敦弘監督の映画『味園ユニバース』。

モチーフは、『記憶喪失』。

この記憶喪失というネタほど、伏線と回収の勉強になるものはない。

④へ続く